

令和4年度第1回倉敷市地域包括支援センター運営協議会（書面開催）要旨

1 会議名

令和4年度第1回倉敷市地域包括支援センター運営協議会

2 開催日

令和4年8月25日（木）

3 委員（16名）

池畠 由利子	（岡山県看護協会倉敷支部）
猪木 真弓	（岡山県介護支援専門員協会倉敷支部）
岡本 育子	（倉敷市愛育委員会連合会）
岡本 武義	（倉敷市民生委員児童委員協議会）
佐賀 雅宏	（倉敷市社会福祉協議会）
佐藤 壽子	（倉敷市栄養改善協議会）
清水 加奈子	（岡山弁護士会）
白神 佳樹	（倉敷市内歯科医師会協議会）
田口 明子	（倉敷市議会保健福祉委員会）
田野 広子	（岡山県備中県民局健康福祉部）
津田 由起子	（倉敷市介護保険事業者等連絡協議会）
中西 文明	（倉敷市老人クラブ連合会）
平尾 祐二	（岡山県社会福祉士会）
眞神 康一	（倉敷市連合医師会）
松村 隆司	（岡山県薬剤師会倉敷支部）
渡辺 操	（倉敷ねたきり・認知症家族の会）

4 議題

- (1) 令和3年度高齢者支援センターの事業報告について
- (2) 令和3年度高齢者支援センターの事業評価について
- (3) その他

5 内容

- (1) 会長・副会長の選出について

委員の同意を得て、会長は、倉敷市連合医師会選出の眞神委員、副会長は、岡山県社会福祉士会選出の平尾委員に決定。

- (2) いただいた御意見・御質問

ア 御意見

○新型コロナの感染拡大が収まらない中、実態把握調査や各種教室の開催などでは、市民の気

持ちに配慮した対応が求められるため、苦悩も多いのではないかと推察します。

- 人との交流が減ることによって、家庭内での介護ストレスが増えてきていることも影響しているのか、介護放棄に関する相談対応件数が増えてきていることは心配なことです。引き続き、適切な助言や支援を行っていただきたいと思います。
- 倉敷市社会福祉協議会においても、日常生活自立支援事業について、新規利用者の受け入れが難しいため、市民に紹介しづらい状況が続いているとのご意見をいただいています。実施体制の充実に向けて実施主体である岡山県社会福祉協議会と引き続き協議してまいります。
- 倉敷市民が、地域で安心して生活できますよう、引き続きご尽力いただきますようお願い申し上げます。
- 議事の内容ではないのですが、書面開催の“概要”が良くまとめられておられ、大変分かりやすく参考になりました。ありがとうございました。

イ 御質問

質問1：帯江・豊洲高齢者支援センターは、令和2年度に引き続き0回が並んでいるが、どのような事情か。コロナ禍でも工夫して実施されているセンターが多い中、高齢者のフレイルが心配なため、実施に向けて前向きに検討頂きたい。

帯江・豊洲高齢者支援センターは、母体法人の高齢者福祉施設内に事務所を置いています。法人内でクラスターが発生した時期があり、そのクラスター対応の経験から、重症化リスクの高い高齢者を対象にした各種教室等の開催の結果、意図せぬ感染拡大が生じてしまう懸念も拭い去れないことから、大事をとって集団で行う教室などの地域活動を自粛する状況がありました。今年度は、教室を開催するための体制を整え、感染予防の工夫をして教室を再開しています。

質問2：高齢者支援センター事業の実施状況について、令和2年度よりも増加している点は評価できる。ただ、各センターで若干、実施状況に差があるように思われる。各センターの工夫や取り組みなど、情報共有をし、事業評価の向上に努めるべきではないか。

令和3年度の活動状況については、令和2年度以上の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、一部のセンターでは、法人内においてクラスターが発生したり、緊急事態宣言等が発令された時期は教室の開催場所が使用不可になったことなどにより、事業実施が難しい時期がありました。そのような中、教室を少人数で複数回に分けて実施する、会議をオンラインで開催するなど、工夫した取り組みがありました。今後も市からセンターへ積極的な情報共有に努めてまいります。

質問3：コロナ禍のセンターの対応について、訪問や面談等をコロナを理由に応じないという対応をされた時、どのように対応しているのか。特に高齢者虐待案件が令和2年度よりも増加しているような状況を見ると、本人、家族が会いたくない、会わせないと言う時に、コロナ禍を理由にする可能性があるのでは、注意が必要ではないか。

実態把握調査等による訪問や面談等を断られた際には、高齢者支援センターの役割や訪問の理由を説明してなるべく理解を得るよう努めるとともに、必要な場合には、民生委員等関係機関を通じて情報収集に努めています。

また、高齢者虐待や困難事例など緊急性を要する案件については、当事者へ丁寧な説明をするとともに、ケアマネジャー、医療機関、警察等の関係機関の協力を得て、速やかに状況把握や対応を行っています。市としても、地域のつながりが希薄化しやすいコロナ禍だからこそ、高齢者虐待をはじめとする困難事例に対し、高齢者支援センターや関係機関との連携をより一層密にし、迅速な対応に努めてまいります。

質問４：小地域ケア会議の活性化に向けた必要経費の予算化は可能か。

小地域ケア会議は、地域に密着した情報共有及び課題解決の場として、平成19年度からおおむね小学校区単位で開催しています。小地域ケア会議が活性化するよう、資料代など必要経費の補助について、要望の声があり、平成28年度から各センター1地区につき、年10,000円の運営費を予算化しております。地域によって用途は様々ですが、資料代、郵券料、会場借り上げ料などに活用いただいております。